

武庫川流域委員会 委員長松本誠様

武庫川を愛する尼崎市民の会
担当 丸尾雅美

第22回武庫川流域委員会での議論に関する質問・意見です。

1、棄却方式がカバー率方式よりも科学的合理性があるのか疑問

流出解析WTから出されている設定②の棄却基準は1/400とされる。なぜ1/100計画を作ろうとしているのに1/400なのか。古市観測値をもとにした1/400棄却基準にどのような合理的根拠があるのかが理解できない。1/100計画のためには、対象降雨の中に棄却されるべきものが残っているのではないか。

「棄却方式はカバー率方式より進歩したもので、後者はやがて消える運命にある」と評価する委員もいるが、国交省の新技术基準でもカバー率方式が劣評価されたり廃棄されていないのは、なにを物語るのか。現状では棄却方式のみに十全の信頼をおくことができないとの危惧があるとも考えられる。

1、計画目標1/100から乖離しないようにとの畑武志さんの提起は重要

従来の河川管理者および同伴する河川専門家の考えによるピーク流量の選択が、目標とした発生確率値より小さくなるという畑さんの指摘は重要だ。現状の2段階計算プロセスでは、1/100の安全度の計画目標が、より発生確率の低い計画にすり替わるということ。このような計画を過大にする弊害を回避して、妥当な計画を立てるべきだとの主張。カバー率を発生確率の問題として捉えて活用する説明には納得できる。将来の基本高水の設定についての論も、同感するところ多い。

1、中川芳江さんの「基本高水を選定しない」との意見は十分審議されるべき

中川さんは繰り返し「当委員会が基本高水を決める必要がない」と主張している。酒井さんや法西さんからも同じような指摘がある。

武甲橋基準点での基本高水設定が、流域全体の安全にはつながらないこと。設定した基本高水以上の洪水への対策（超過洪水対策）が後手になる危険性。財源等とのかかわりで具体的治水対策が遅れる可能性。などが理由とされている。

一刻でも早くダムによらない総合治水を確保するために、十分審議されるべきだ。参加委員の積極的な意見表明を求めたい。

1、他委員からも重要な意見がある。すべてにつき丁寧な議論の積み重ねが大切だ。

2005年8月25日